



埼玉県舞踊協会ニュース

埼玉県舞踊協会
NO.44

Saitama Dance Association

発行所：埼玉県舞踊協会
発行者：中村 友美
埼玉県さいたま市浦和区東仲町 1-16 鳥昇ビル 3F
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549

President's Column

埼玉県舞踊協会会長 中村友美
芸術美の秋 皆様の地域に於いて文化祭等開催され各々活躍の事と存じます。

平成29年度協会事業は第50回埼玉全国舞踊コンクール(7/21~28)がさいたま文化センター大ホールでスタート致しました。皆様のご要望、ご意見を参考に要項を改善し御陰様で無事盛会に終えることが出来ました。第44回ステーション(9/9~10)がさいたま芸術劇場小ホールにて開催し協会50周年記念特別企画、藤井公・利子作品「北斎」今より二景「女今昔」抜粋を孫娘藤井彩加さんが若者らしい表現で踊りました。参加作品も個性のある力作が並び、即興タイムも充実しコンクールの上位作品披露が花を添えりある公演となりました。

10月以降は若手理事担当のジュニアバレエフェスタ(10/15)がさいたま市文化センター東側広場、コレオグラファーの目vol.10足袋nce能楽堂現在を刻む(11/3)がこしがや能楽堂、芸術文化ふれあい交流フェア(11/11)が桶川文学館、バレエモダンダンスフェスティバル(2018.3/4)が埼玉会館等、ぜひお時間を作りお出掛け下さい。どんなにITが進んでも生で鑑賞する事に勝るものは有りません。

会員皆様の地域での活躍が洋舞踊文化発展に繋がりますようお願いしております。

伸びゆく彩の国さいたまの子どもたちによる
第51回 バレエ・モダンダンスフェスティバル
(会場)埼玉会館 大ホール (入場無料)
(日時)2018年3月4日(日) 16:30開演予定

①井上美代子バレエスタジオ
②すゞさよこモダンバレエ教室
③山本敦子バレエスタジオ
④中村友美・上田仁美モダンバレエ
⑤細川初枝モダンバレエスタジオ
⑥和加枝舞踊研究所(小林和加枝)
⑦Sachiバレエスタジオ

⑧マヤバレエスタジオ(原島マヤ)
⑨藤井・上原モダンバレエスタジオ(藤井香・上原尚美)
⑩谷 乃梨絵モダンバレエスタジオ
⑪バレエスタジオ ルシエル(伊藤一枝)
⑫川名今朝美モダンバレエスタジオ
⑬吉田久木子モダンバレエ研究所
⑭室内絹子モダンバレエ研究所

第50回 埼玉全国舞踊コンクール

2017年7月21日(金)~28日(金)
さいたま市文化センター 大ホール・小ホール

主催◎埼玉県舞踊協会 共催◎(公財)さいたま市文化振興事業団
後援◎埼玉県/埼玉県議会/埼玉県教育委員会/(一社)埼玉県文化団体連合会/
朝日新聞さいたま総局/埼玉新聞社/東京新聞/毎日新聞さいたま支局/
読売新聞さいたま支局/テレビ埼玉/チャコット株)/(一社)現代舞踊協会/
(公社)日本バレエ協会/(公財)橋秋子記念財団



クラシックバレエ 1部(成人)

高橋夏海
百田朱里
佐藤優美
金子真也
高谷 遼
石井月乃
小笠原祥真
間瀬琴乃
西澤ひかる
藤田 麗
石野春奈
永橋晴々華
木村優花

第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞
橋秋子賞 読井公賞(公社)日本バレエ協会賞
第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞
第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞
第3位の1 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の2 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の3 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
朝日新聞社賞
埼玉新聞社賞
テレビ埼玉賞
東京新聞賞
毎日新聞社賞
読売新聞社賞
チャコット賞

クラシックバレエ ジュニアの部

内田瑠璃
吉野文乃
小川しずく
山本涼杏
オム ソフィア
小杉瑠々
田島美咲
中西裕奈
西澤真優
立花真帆
井久保白和
末次正樹
石井 潤

第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞
橋秋子賞 津田郁子賞(公社)日本バレエ協会賞
第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞
第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞
第3位の1 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の2 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の3 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
朝日新聞社賞
埼玉新聞社賞
テレビ埼玉賞
東京新聞賞
毎日新聞社賞
読売新聞社賞
チャコット賞

クラシックバレエ 2部(児童)

根本 彩
渡邊 華
山崎羽紗
島田菜乃華
田縁奈々
土方 菖
一本木ひとみ
鈴木彩夏
大藪 樹
林 美羽
尾村菜子
勝原佳音
新井歩美

第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞
橋秋子賞 津田郁子賞(公社)日本バレエ協会賞
第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞
第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞
第3位の1 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の2 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
第3位の3 埼玉県舞踊協会賞
県文化団体連合会会長賞
朝日新聞社賞
埼玉新聞社賞
テレビ埼玉賞
東京新聞賞
毎日新聞社賞
読売新聞社賞
チャコット賞

この度は、第50回埼玉全国舞踊コンクールに参加でき、第1位を獲得して大変嬉しいです。自分らしいサタネラを心がけて踊りました。日頃より、ご指導いただいた先輩やアドバイザーをくれた先輩、友人に感謝いたします。

私は、コンクールで初めて1位を頂けて、とても嬉しいです。何度も予選落ちして泣いてばかりだった私を励まし、優しく、時に厳しく指導して下さいました先生方、そしていつも穏やかに見守ってくれた家族に感謝します。

評

クラシックバレエ 1部(成人)
舞踊評論家 うらまこと

「長い伝統の上に充実を加える」
50回を数えた埼玉全国舞踊コンクール。1967年(東京オリンピックの3年後)のスタートですが、それ以前には戦時中(1939年)に始まった東京新聞主催の全国舞踊コンクールしかありませんでした。つまり戦後スタートした初のコンクールです。しかも新聞社のようなしっかりとした組織をもたず、舞踊家だけの団体、埼玉県舞踊協会が主催するという、当時としては大変な英断であり、担当されたかたはいろいろとご苦労をされたと思います。最初のものは、地元埼玉県のレベルは低く、そのため賞にも特別の配慮を必要としましたが、今や参加は全国から、そして埼玉県の舞踊家もそれらに十分対抗するレベルに達しています。

一方コンクールはその後10年少して日本バレエ協会の全日本やこま全国洋舞や秋田、横浜なども含まれたが、21世紀に入るまでは20足らず、それが現在では計算の仕方にも依りますが、100、いや200ともいわれています。

このような乱立するコンクールのなかで、部門を増やすなど、手を加えつつ伝統を守り守っていることに敬慕します。

さて、今回のクラシック1部(成人)ですが、59人のエントリー、決選進出40名はこの部門としてはなかなかの人数、決選を見る限り、レベルも結構なもの。特に女性ではプロ

ポーション、技術に優れた表現にも気を配っているものが多く、6人進出に男性も、一時の技術偏重から動きやポーズの基本にも意識が向くようになり、よい傾向です。ただ、この年代になると、将来ダンサーとしてやっていくのなら、グラン・パのヴァリエーションだけでなく、コールド・バレエとしての意識、技術も重要だということをお忘れではありません。

上位6人のうち女性が4人、そのうち3人がオーロラ(1、3幕)、とくに1位の高橋夏海は、姿態や動きにゆとりと情熱が見え、クラシカルな印象、佐藤優美、石井月乃は技術や見せ方に優れています。それに続く間瀬琴乃は、スマートフォン作品を2位、デイールの百田朱里は自分のもつ技術と表現力をしっかりと生かしていました。男性ではバジルの金子真也は、見せ方をきちんと心得、海賊の高谷遼はダイナミックな跳躍につづくバジルの小笠原祥真は回転に特徴があり、スタイル、動きに古典的リズムをもつ西澤ひかる、活刀に満ちた柔らかな木村優花、技術的にはもう一息ですがよい雰囲気をもつ本村明日香、ソナタツクリザバ佳などが記憶に残りました。

評

クラシックバレエ ジュニアの部
舞踊評論家 林 愛子

埼玉全国舞踊コンクールは今年50周年を迎えたこと、今年初め「バレエ・ジュニア部門」の決選審査に参加させていただきました。全国各地で舞踊コンクールが盛り

に行われるようになった昨今、当コンクールが日本において優れたダンサーの育成を担ってきた実績により舞踊界をリードしてきたことは周知のことです。今回もまた決選出場者の水準の高さがそれを示しているといえます。

まずプロポーションの良さによってステージに立つた時に「アヒル」で驚かされることがあること。ほとんどの参加者がこの条件を満たしていることには驚きとともにうれしさを感じました。筆者の10代の頃と比べると飛躍的に向上しているからです。

さて、そのうえで踊るヴァリエーションは自身の個性を生かし、バレエ・テクニックを駆使して豊かな音楽性と表現力によって役柄の特徴をうまく表すことが求められます。コンクールでは、たまたま何らかの作品を踊るとはいえ、舞団の時々の場ではない、「二回性」という厳しさがありませんが、やはり上位入賞者の方々は可能な限りに力量を発揮していることが見えました。たとえば「マキータ」や「ドルメン」に求められる典雅さ、「オーロラ」に必要不可欠な華やかさ、「シゼル」の可憐さ、「キトリ」のイキキとした陽気さ、それらにまた、大勢の方が身体の内から湧いてくる音楽をくつきりと表してヴァリエーションをいつそう魅力あるものにしているなど日本のジュニアの底力がうかがえて今後を期待を抱かれます。

成長期にあるジュニアは、肉体的にも精神的にも柔軟であり、作品を理解して今以上に表現を深め上げる、あるいはテクニック

コンテンポラリーダンスと古典芸能の
コラボレーションシリーズ第3弾!
「現在を刻む」
コレオグラファーの目vol.16
「足袋nce@能楽堂」
2017.11.3(金・祝) 14:00~
こしがや能楽堂
全席自由 2,500円

評 モダンダンス 1部 成人

舞踊評論家 山野博夫

50人の決選出場者のレベルはひじょうに高かった。第1位の『夢む』藤井淳子は、スケールの大きな踊りで魅力。彼の踊りは、2014年の箱根コンクールであったと、賞を賞した泳ぎの連続で初めてお目にかかった。今年に入って、幅原彩加・米沢麻佑子の『跡』山本松乃の『アト』ウエノ舞曲第9番『歡喜の歌』など踊り、注目度を高めている。今後の活躍が期待される。

第2位の『真昼の月』近藤みどり。2015年の秋田コンクールでグランプリを受賞し、にわかに注目を集めるようになった。彼女は若くして自分の表現を身につけた。今年、東京新聞コンクールで第3位に入り、モダンダンス5月の祭典には、限りある空で出場。音楽や照明の使い方も長けているので、将来が楽しみだ。

第3位の『おもかげ』鈴木泰羽は菊地高子門下。うと出てきて、うとぜん変貌する踊り方は師匠譲り。観客にシバキを与える踊りは将来性充分。第3位の『評』江上万純は井上恵美子門下。2010年の東京新聞コンクールで2位に入り、以後たびたび師匠の作品を踊って舞台経験を積んできた。変化のある踊り方を生かした次のステップへ進んでほしい。第3位の『非情なアノ』安達雅は島田美智子門下。埼玉県のステージやザナリマなどで修行を積んできた。優秀な人材がそろった島田門下で磨かれた経験を生かし、さらなる独自の表現を創り出す時期にきている。

第3位以下にも多くの逸材がそろっている。埼玉全国舞踊コンクールは、外来の技術をもっと使って、独自の表現を開発しようという人々も、はつきり線を画して選考を行ってきた。この伝統は、今後も守って行つてほしい。

評 モダンダンス ジュニア部

舞踊評論家 門行人

コンクールにおけるモダンダンスの審査基準はどのようであるべきだろうか。私は次のように考えている。バレエの審査基準は明確だ。技術に優れており、技術にまみらない魅力表現がある者が高く評価される。これは技術に汎用性があるからだ。世界のどこでも同じ技術を用いて表現が構築されるので、技術の習熟度が重要になる。

モダンダンスにも同じことが言えるだろう。基礎的技術は多くの振付家共通する。そのような技術がきちんとできているかは当然、審査の注目ポイントになる。だがコンクールでは、基礎的とはとも異なる、バレエの場を離れた実際の作品に同様の表現に役立つものなら、当然それなりに評価しなければならぬ。だが実際には、難技にならなければ、実際の作品では効果的でなくなる傾向がある。バレエの表現は、役柄の具象的な人物造型である場合もある。超人的な技術は、ふだん見るといふ開を観客の眼前に拓く効果を持つと考えられる。だがモダンダンスはより現実的な人間に定位しているため、公演で上演される作品に難技が挿入されることは、唐突な印象を与えることが多い。作品内容に対して必ずしも必要とすべきではない。モダンダンスに難しい技術が必要ないというのではない。振付家によっては独自の表現にきわめて高度な技法が欠かせないこともある。だがそれは表現のために必然的に要請される技法であり、コンクールに見られる技術のための技術の陳腐さとはまた異なるものだ。

そこで問題は、これから舞踊家になるという人が、今後の舞踊活動でそれ自体として、あまり役に立たないであろう特殊技術をコンクールで誇示するときに、それをどのように評価すべきか、ということになる。

モダンダンスに難しい技術が必要ないというのではない。振付家によっては独自の表現にきわめて高度な技法が欠かせないこともある。だがそれは表現のために必然的に要請される技法であり、コンクールに見られる技術のための技術の陳腐さとはまた異なるものだ。

評 モダンダンス 2部 児童

舞踊評論家 高橋裕彦

埼玉全国舞踊コンクールが50回目を迎えた。わが国を代表する舞踊コンクールとして名声を全国に轟かせているのは、埼玉県舞踊協会の先生方が手をたずさえて発展させてこられたからである。今回モダンダンス2部(児童)決選審査を4年ぶりに務めて感じたのは、その歴史と伝統に加え新たな息吹の手応えだった。

コンクールの本質は他者に対する優位性を示すことだから、役に立つものが立たなからうが、できる者が限られる技術は評価すべきだ。という考え方もあろう。それを否定するつもりはない。だが私は、ダンスという芸術分野のコンクールである以上、芸術表現との関連性が薄く、技術に大きく加算する気にはなれなかった。

技術云々のレベルを超えて全身で表現に飛び込んでいる参加者も少なからずいたのは幸いだった。第2位を獲った今村櫻の強靱な表現や、中島耀や山本松乃の魅力的なムーブメント解釈が特に印象に残った。

技術云々のレベルを超えて全身で表現に飛び込んでいる参加者も少なからずいたのは幸いだった。第2位を獲った今村櫻の強靱な表現や、中島耀や山本松乃の魅力的なムーブメント解釈が特に印象に残った。

評 創作舞踊部門

舞踊評論家 立木輝子

埼玉全国舞踊コンクールが50回という節目を迎え、盛況のうちに幕を閉じた。半世紀もの長きにわたり継続的に開催されてきたその成果は、先生方をはじめ多くの舞踊関係者のご努力の賜物とまずはお祝い申しあげたい。

創作舞踊部門の決選は最終日の7月28日に開催され、今回は8組が残った。例年に比べるとやや少ない気もするが、全体参加総数(13)を考えると妥当な選抜数であろう。出品作も多様で、創作への意欲的な姿勢も窺い評した。

第1位、埼玉県舞踊協会賞、県知事賞に輝いた藤井淳子の『More than a memory』は、知的な工夫が光るダンスとれた作品。テーマに即した機知に富むアイデアが効果的で、弾力性、揺れ、跳躍などの何気ない動きで表現を主題へと収めていく。男女9人による群、デュエット、ソロも音楽にのった多彩な動きがダイナミックに展開、全体を盛り上げる構成が楽しい。

オリジナルな創作性で強い印象を残したのが、第2位となつた埼玉県教育委員会教育賞受賞の『More than a memory』が決選で競った。全体に、意欲は見るものの、踊りの強度、表現への挑戦的な姿勢が弱い。観客と共有する同時代と向き合い、表現したいことを舞踊的に昇華したい。

に(僕の小象風景)と思いきもが呈示される。男女5人によるダンスにも切れがあり、カラフルな照明、傘などのオブジェを用いた美術とも融合して詩的でシュールなイメージを生み出した。赤く燃える世界に無数の傘が印象的な最終幕まで起承転結の確かな計算があり、青春の不安と優しさ、繊細さを巧みに浮上させた。

第3位、埼玉県芸術文化祭実行委員会賞の草間華奈『Landscape』。自分の進むべき道を求めて、は、バック・サティの『ムンパ・ペディア』の繊細な旋律にのって男女数名が軽やかに踊る。リリカルな詩情が魅力的で、フレアスカートが揺れまわると計算に入っているような繊細がある。ただ真面目過ぎるくらいがあり、アップテンポに展開する場は不満が残る。

第4位『昨日(こ)に(た)だけ有思は、女性のデュエットが主役出す関係性の妙。アシメトリの構図、ずれる関係性。何気ない日常から奪れず時間のドラマを描いている。』

第5位の熊木梨乃の『Complement』。補完的關係は、構造的なあるリズムから個々にほらける過程で題を通り、支え合い補完する関係性をテーマにする。アイデアが良く、男女6人が前後左右に揺れ、反りながら、極限まで姿勢を変えていく。鐘の音、ピアノ、ノイズに変化する音楽がアップテンポになつていく段階で、緊迫感が持続しないのが難点。

第6位のかまいたまは『はるか(トラ)インダール』はミカルな女性のデュエット。黒いドレスの女性、入が意表をつくる形を変容を続け笑せる。また、タイトルが示唆する哲学的な実行までには至らず、このままではマンネリに陥る危険も、個性に頼らず主題と向きあいたい。

モダンダンス

モダンダンス 1部 (成人)



藤村港平

この度は、栄えある賞を頂けたことを大変光栄に思います。口頃より応援してくれる家族、ご指導いただいている先生方、先輩方のお力添えがあったの受賞です。これからも賞の名に恥じぬように日々精進していきます。

- 第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞 橋秋子賞 藤井公貴(一社)現代舞踊協会
- 第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞 杉原 萌
- 第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞 近藤みどり
- 第3位の1 埼玉県舞踊協会賞 県文化団体連合会会長賞 鈴木泰羽
- 第3位の2 埼玉県舞踊協会賞 県文化団体連合会会長賞 江上万純
- 第3位の3 埼玉県舞踊協会賞 県文化団体連合会会長賞 安達 雅
- 朝日新聞社賞 岸野奈央
- 埼玉新聞社賞 田中麻友美
- テレビ埼玉賞 山西香澄
- 東京新聞賞 藤井彩加
- 毎日新聞社賞 山之口理香子
- 読売新聞社賞 荒生由莉香
- チャコット賞 田中朝子

1部 成人の部

ジュニアの部



今村 櫻

今回はこのような賞を頂くことができ、大変光栄です。最後の最後までご指導頂いた先生方、応援してくれるスタジオの仲間、そして家族の支えに感謝しております。

- 第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞 橋秋子賞 津田那子賞(一社)現代舞踊協会
- 第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞 今村 櫻
- 第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞 足立真珠
- 第3位の1 埼玉県舞踊協会賞 小澤早暁
- 第3位の2 埼玉県舞踊協会賞 県文化団体連合会会長賞 長澤ほのか
- 第3位の3 埼玉県舞踊協会賞 県文化団体連合会会長賞 関根和子
- 朝日新聞社賞 高橋くりん
- 埼玉新聞社賞 中島 耀
- テレビ埼玉賞 宮口真緒
- 東京新聞賞 伊田田稀日
- 毎日新聞社賞 寺澤亜海
- 読売新聞社賞 浦郷 愛
- チャコット賞 名雲有希
- 鈴木彩葉

モダンダンス 2部 (児童)



中込菜那

この度はとてもありがたい賞を頂き本当にありがとうございました。いつも熱心に指導して下さる先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも毎回のレッスンを大事にがんばっていききたいと思います。

- 第1位 埼玉県舞踊協会賞・県知事賞 橋秋子賞 津田那子賞(一社)現代舞踊協会
- 第2位の1 埼玉県舞踊協会賞・県議会議長賞 中込菜那
- 第2位の2 埼玉県舞踊協会賞・県教育長賞 関根佳子
- 第3位の1 埼玉県舞踊協会賞 青笹玲那
- 第3位の2 埼玉県舞踊協会賞 県文化団体連合会会長賞 阪本英理
- 第3位の3 埼玉県舞踊協会賞 県文化団体連合会会長賞 金子穂夏
- 朝日新聞社賞 堂田美瞳
- 埼玉新聞社賞 沖田麻桜
- テレビ埼玉賞 高塚祐希
- 東京新聞賞 岩永明希
- 毎日新聞社賞 牧野あい
- 読売新聞社賞 西山由里子
- チャコット賞 石徳芽依
- 五十嵐心乙

創作舞踊

創作舞踊部門

藤井淳子



この度は、第1位という身に余る賞を頂きまして誠にありがとうございます。作品に出演してくれる仲間、いつも応援してくださる皆様から感謝しております。頂いた賞に恥じぬようより一層精進して参りたいです。

- 第1位 埼玉県舞踊協会賞 埼玉県知事賞 藤井淳子
- 第2位 埼玉県舞踊協会賞 埼玉県教育委員会教育長賞 大和
- 第3位 埼玉県舞踊協会賞 埼玉県芸術文化祭実行委員会会長賞 草間華奈
- 第4位 埼玉県舞踊協会賞 埼玉県芸術文化祭実行委員会奨励賞 たけだ有里
- 第5位 埼玉県舞踊協会賞 埼玉県芸術文化祭実行委員会奨励賞 熊木梨乃
- 第6位 埼玉県舞踊協会賞 埼玉県芸術文化祭実行委員会奨励賞 トライアングル

エッセイ

吉田久木子

私はバレエが大好きな少女でした。10代の終わり頃にはバレエを仕事として続けていきたいと思うようになりました。小さい頃から教えていただいた先生の元を離れて、自由にレッスンを受けたり作品を創ったりし始めました。そんな時に三条万里子先生のクラスで「コントラクション」という言葉を知りました。またクラシックバレエのクラスを受けて、アレグロについて行けず冷や汗を流しました。そんな私を丁寧に指導して下さった先生方に感謝しています。アメリカ文化センターでマーサグラムのテクニッククラスを受けたのもこの頃でした。オープンクラスで自由に学ぶことの有り難さも心に響きました。

ほかに、青春時代のオマージュ『砂糖菓子の頃』More than a memory』が決選で競った。全体に、意欲は見るものの、踊りの強度、表現への挑戦的な姿勢が弱い。観客と共有する同時代と向き合い、表現したいことを舞踊的に昇華したい。

天候にも恵まれた9月9日(土)10日(日)ステージ1は盛況のうちに無事終了いたしました。2002年の第29回以来、彩の国さいたま芸術劇場小ホールという恵まれた舞台空間で若手舞踊家を中心に据えたこの会を行なってきました。2011年、東日本大震災の影響で他の会場に変更になりましたが、その翌年には芸術劇場小ホールに戻ることができ、今日まで回を重ねて44回目。当協会50周年記念として藤井公・利子作品『北斎・今より2景』女今昔を藤井彩加さんに挑戦していただき、第41回から4回連続の企画、松本大樹さん松崎えりさんが指導くださった即興タイムは2回のワークショップを経て、参加したダンサーの感性を広げてくれました。公募18作品は個性豊かでそれぞれ印象深いものでした。コンクール披露作品も熱演で満場の喝采に包まれました。ご協力くださいました先生方から感謝申し上げます。

編集後記 埼玉県舞踊協会、50周年 今年も変わらず進んでいきます。 優しく、楽しく、面白く企画、協会の皆様方からのご提案お待ちしております。

協会員催し物のご案内 2017年10月〜2018年4月 第19回細川初枝モダンバレエ発表会 11/23(木)祝 16:00 日暮里サニーホール 048(283)3245 細川初枝

ザ・ネリマ現代舞踊展 Vol.30 『有科』 2018年3/16(金)19:00 練馬文化センター つつじホール 03(3995)2218 藤原照子

埼玉県芸術文化祭地域文化事業 第44回ステージ1無事終了! 担当 アキオキムラ